日本語の四字漢語動詞の自他に関する研究
—VN-VNタイプの四字漢語動詞を中心に—

劉　徳　駿
（崇華小学校）

０．はじめに

小林（2004：205）によると、四字漢語動詞は一般的に(A)〜(C)のように分類されている。

(A)「1＋3」タイプ：再・活性化
(B)「2＋2」タイプ：法律・改正
(C)「3＋1」タイプ：大規模・化

小林（2004）は、(B)の「2＋2」タイプの四字漢語動詞を考察し、以下の(D)〜(F)のように分類している。

(D) N-VNタイプの四字漢語動詞
名詞的要素と動詞的要素で構成される四字漢語動詞
例：法律改正する、意識改革する、地盤沈下する

(E) VN-VNタイプの四字漢語動詞
動詞的要素と動詞的要素で構成される四字漢語動詞
例：通勤通学する、輸入販売する、指導監督する

(F) ADJ[1]-VNタイプの四字漢語動詞
付加詞的要素と動詞的要素で構成される四字漢語動詞
例：空中爆発する、大量生産する、相互訪問する

従来、四字漢語動詞の研究は、小林（2004）を代表として、語形成の観点から議論されている。しかし、実際の用例を調べてみると、VN-VNタイプの四字漢語動詞の類型が多様であることが見られる。例えば、

(1)府内の児童相談所を指導監督する大阪府家庭支援課も、センターの対応に不備がなかったかどうか調査することを決めた。虐待について、迅速な対応や早期発見が可能となるような対策作りも急ぐ方針。

（毎日新聞データファイル2004年１月26日）

(2)通知によれば、公的テストは「学校が連携協力して問題を作成や採点に携わるなど、それぞれの学校が教育活動として行う性質のもの」に限って認められる。（小林2004：256）

（朝日新聞1993年５月22日）

(3)住むための土地しか持たない人に過重な負担にならないよう、固定資産税をどのような形で課税強化すればよいのか、住民税減税と組み合わせられないか、など具体的な論議を始める時期にきている。（小林2004：259）

（朝日新聞1989年11月22日）

(4)約５０万人（主催者発表）が参加した先月１日のデモに端を発し、香港政府に対する市民の不満が高まるなか、当時の梁錦松・財政長官と葉劉淑儀・保安局長が同１６日に辞任表明した。

（毎日新聞データファイル2003年８月５日）

例(1)は目的語を表すヲ格名詞（前文）を取るので他動詞であり、例(2)は目的語を表すヲ格名詞を取らないので自動詞である。内部構造から見れば、例(1)の「指導監督する」は「指導」と「監督」、例(2)の「連携協力する」は「連携」と「協力」の組み合わせで複合した四字漢語動詞であり、前項要素と後項要素が類義的な関係を持つ。そして、例(3)は目的語を表すヲ格名詞（前文）を取るので他動詞であり、例(4)は目的語を表すヲ格名詞を取らないので自動詞である。しかし、内部構造から見れば、例(3)の「課税強化する」、例(4)の「辞任表明する」はそれぞれ「課税を強化する」、「辞任を表明する」に言い換えることができるため、前項要素が後項要素の目的語を表すものである。つまり、VN-VNタイプの四字漢語動

詞の自他とその内部構造の自他との関係から見ると、VN-VNタイプの四字漢語動詞にはさなまざな類型が存在することが分かる。

すでに述べたように、四字漢語動詞に関する研究は主に内部構造を考察しているが、四字漢語動詞の自他とその内部構造の自他との関係を論じるものは管見のかぎり見当たらない。そのため、本稿はVN-VNタイプの四字漢語動詞の自他とその内部構造の自他との関係を明らかにすることを目的とする。

１．研究対象

漢語動詞とは、一般的にⒼ〜Ⓙのように「漢語＋する」という語形を持ち、いわゆる「漢語サ変動詞」のことである。

Ⓖ 一字漢語動詞：愛する、制する、…
Ⓗ 二字漢語動詞：食事する、過熱する、…
Ⓘ 三字漢語動詞：再検討する、過熱化する、…
Ⓙ 四字漢語動詞：法律改正する、通勤通学する、…

このうち、本稿はⒿのような「（二字漢語＋二字漢語）＋する」という四字漢語動詞を研究対象とする。なお、「切歯扼腕する」のような内部構造を分けることが困難なもの、例⑸ａと例⑸ｂに示したように、後項要素が自他両用動詞[2]であるものは本稿の研究対象から排除する。

⑸
a．東京都は回収制度が導入された昨年１０月からパソコンをゴミとして回収することを全面停止し、回収義務者が明確でないパソコンの回収は同協会が請け負っている。
（毎日新聞データファイル2004年１月28日）

b．府などの推測では、大地震で公共交通機関が全面停止すると、大阪市内だけで約２０３万人が足止めされ、多くが徒歩での帰宅を余儀なくされる。(毎日新聞データファイル2004年３月31日)

本稿では小林（2004）の分類に従い、主に「通勤通学する」のようなVN-VNタイプの四字漢語動詞を考察する。

２．データの収集方法

本稿で分類に用いられる用例は主に毎日新聞データファイル2003年と2004年から抽出したものである。VN-VNタイプの四字漢語動詞の収集方法については、まず、WindowsOSの環境においてサクラエディタを用い、正規表現で四字漢語動詞を抽出した（[一-鰧]{4}(し|す|せ)）。次に、抽出したデータにN-VNタイプの四字漢語動詞、ADJ-VNタイプの四字漢語動詞、「年賀状残し」のような動詞ではないものがあるので、Excelで処理し、本稿の研究対象とならないものを削除した。

３．先行研究

VN-VNタイプの四字漢語動詞を論じている論考は、管見の限り非常に少ないと思われる。以下、小林（2004）、野島（2006）をとりあげ、先行研究について述べる。

小林（2004）は、N-VNタイプの四字漢語動詞の内部構造について考察している。

⑹こうしたロケーションの悪さを解消するとともに、埼玉県に在住し東京都内に通勤通学する「埼玉都民」の便を図ろうと、東京駅前でのキャンパス設置を決めた。（小林2004：256）
（毎日新聞2000年12月２日）

⑺総裁選出方法が決まれば、26日の派閥臨時総会で正式に出馬表明することになった。（小林2004：259）　（朝日新聞1993年７月23日）

小林（2004）は、例⑹の「通勤通学する」のような四字漢語動詞は前項要素と後項要素が類義的な意味を持つため、両側主要部タイプ（前項要素と後項要素が並立関係にあるタイプ）に分類している。例⑺の例「出馬表明する」は前項要素が後項要素の目的語であり、前項要素と後項要素が項関係にあるタイプ（右側主要部[3]タイプ）である。

⑻「無事に返して」と両親は手記を書いて訴え、戻ったときに備えて名前もつけて、お乳を冷凍保存している。（小林2004：263）
（朝日新聞1993年６月１日）

また、例⑻の「冷凍保存する」は前項要素が後項要素を修飾し、前項要素と後項要素が修飾関係にあるタイプもある。小林（2004）は修飾関係のタイプにおける前項要素の意味に注目し、例⑻の「冷凍保存する」のような前項要素が後項要素の様態・手段を表すタイプである（右側主要部タイプ）。

⑼「無農薬バナナ」を輸入販売する動きが、生協や専門店で広がっている。（小林2004：265-266）　（朝日新聞1993年６月８日）

⑽後輩によると、生徒は高校入学後、柔道部に体験入部したが、2、3日でやめたという。（小林2004：267）　（朝日新聞2000年12月７日）

例⑼の「輸入販売する」のような前項要素が後項要素の先行動作を表すタイプ、例⑽の「体験入部する」のような前項要素が後項要素の目的を表すタイプ（右側主要部タイプ）に分類している。

以上で述べた小林（2004）の分類を表１にまとめた。

表１　小林（2004）の分類

タイプ	下位タイプ	四字漢語動詞
両側主要部タイプ	前項要素と後項要素が並立関係にあるタイプ	通勤通学する 連携協力する
右側主要部タイプ	前項要素と後項要素が項関係にあるタイプ	出馬表明する 公開請求する
	前項要素と後項要素が修飾関係にあるタイプ	
	前項要素が後項要素の様態･手段を表すタイプ	冷凍保存する 対面販売する
	前項要素が後項要素の先行動作を表すタイプ	輸入販売する 選定購入する
	前項要素が後項要素の目的を表すタイプ	体験入部する 実証分析する

野島（2006）は、四字漢語動詞を４つのタイプに分けて考察している。第１タイプは「自主運営する」のように修飾機能をもつ副詞と動詞とからなるもの、第２タイプは「自己描写」のように後項要素（描写する）が動詞の機能を想定し、前項要素（自己）と項関係で複合するものである。第３タイプは「比較検討する」のように「比較･検討する」と見なされるもの、第４タイプは「切歯扼腕する」のように熟語として使われるものである。以上で述べた野島（2006）の分類を表２にまとめた。

表２　野島（2006）の分類

タイプ	四字漢語動詞	元になる句構造
第１タイプ	自主運営	自主的に運営する
第２タイプ	自己描写	自己を描写する
第３タイプ	比較検討	比較・検討する
第４タイプ	切歯扼腕	

上記から分かるように、小林（2004）、野島（2006）はVN-VNタイプの四字漢語動詞の自他とその内部構造の自他との関係を詳しく述べていない。そのため、本稿では、小林（2004）、野島（2006）を踏まえ、VN-VNタイプの四字漢語動詞の自他とその内部構造の自他との関係を考察する。

４．四字漢語動詞の自他の判定基準

従来、動詞の自他については盛んに論じられている。本章では、まず、これまで動詞の自他に関する研究を概観する。

以下、和語動詞の自他を論じるもの（松下1923、奥津1967、森田1987）と、漢語動詞の自他を論じるもの（影山1996、張2014）に分けて年代順で見ていく。次に、本稿における四字漢語動詞の自他の判定基準を述べる。

松下（1923：18）は、動詞の自他について⒦のような相対のある動詞を「対称的自他動」、⒧のような相対のない動詞を「単独的自他動」と呼んでいる。

	自動	他動
⒦	花が散る	風が花を散らす
	木が枯れる	虫が木を枯らす
	山が見える	人が山を見る
	本が出る	本屋が本を出す

(L) 人が死ぬ　　賊が人を殺す
本が出来る　　学者が本を拵える
子供が学校へ這入る　親が子供を学校へ入れる
松下（1923：18）

また、松下（1923）は、他動詞を(M)のように目的語をとるもの（「実質的他動」）、(N)〜(Q)のように目的語をとらないもの（「形式的他動」）に分けている。

「実質的他動」
(M)風が砂を吹く（吹き飛ばす）、風が草を吹く（吹き）…
「形式的他動」
(N)「進行的形式他動」（空を吹く、道を行く、…）
(O)「出発的形式他動」（東京を立つ、親を離れる、…）
(P)「時間的形式他動」（今日を遊ぶ、三年を住む、…）
(Q)「後件的形式他動」（行きや別れむ、恋しきものを、…）
松下（1923：23-25）

奥津（1967：47）は、動詞の自他の定義について以下のように述べている。

動詞の自・他は、文構成の上で、自動詞は目的語をとらず、他動詞は目的語をとる、という著しいちいのがあることを認めなければならない。そして、名詞につく格助詞の「ヲ」が、目的語の目印となる。
（奥津 1967：47）

奥津（1967）は、この定義によって例(11)の「安宅ノ関ヲ通ッタ」のように、ヲ格名詞（安宅ノ関）を取るが目的語ではなく通過点として機能する場合は自動詞、例(12)の「弁慶ヲ通シタ」のように、目的語を表すヲ格名詞（弁慶）を取る場合は他動詞であるとしている。

(11) 弁慶ハ<u>安宅ノ関</u>ヲ通ッタ。
（奥津1967：47）

(12) 富樫ハ<u>弁慶</u>ヲ通シタ。
（奥津1967：48）

森田（1987：155f.）は、動詞の自他の定義について以下のように述べている。

だいたい動詞の自他と言っても、日本語の場合、それほど明確な線が引けるものではない。他の対象に対しての働き掛けが他動詞で、その主体自体の働きが自動詞だと一応は説明する。（……中略……）今日、その動詞が自動詞か他動詞かを弁別する一つの目安として、ヲ格の目的語を取り得るか否かということが判定基準となっている。（森田1987：157）

森田（1987）では、この定義のように、目的語を表すヲ格名詞を取り得るか否かによって動詞の自他を区別している。例えば、「ご飯を食べる」のように、「食べる」は目的語を表すヲ格名詞（ご飯）を取るので他動詞、「空を飛ぶ」のように、「飛ぶ」は「移動」や「起点」を表すヲ格名詞（空）を取るので自動詞であるとしている。

影山（1996）は、漢語動詞の自他を(R)の「自動詞のみ」、(S)の「他動詞のみ」、(T)の「自他両用動詞」の３種類に分けている。

(R)自動詞のみ
事故が発生する、地価が下落する、水が蒸発する、株価が暴落する、ビルが乱立する。
(S)他動詞のみ
ビルを爆破する、通行人を殺害する、郊外を緑化する、顔を整形する、主張を正当化する。
(T)自他両用動詞
拡大する、縮小する、変形する、完備する、完成する、回転する、展開する、解散する、

影山（1996）は、自他の判定基準が恣意的に決まっているのではなく、意味的要素によって定められ、例えば、「水が蒸発する」のように、そ

の事態は自然に起こるので自動詞として機能し、それに対し、「主張を正当化する」のように、その行為は行う動作主が必要であるから、他動詞として機能すると説明している。

また、影山（1996）は自他動詞の構造的な特徴を述べていないが、挙げた例から見れば、「他動詞のみ」は一般的に目的語を表すヲ格名詞を取るので他動詞であり、それに対し、「自動詞のみ」は「*水を蒸発する」のように、目的語を表すヲ格名詞（水）を取ると非文になるので自動詞である。つまり、目的語を表すヲ格名詞を取るか否かによって動詞の自他を判断しているということである。

張（2014）は、漢語動詞の自他の定義について次のように述べている。例⒀の「増強する」は目的語を表すヲ格名詞（生産能力）を取るので他動詞として使われるのに対し、例⒁の「高騰する」は目的語を表すヲ格名詞を取らないので自動詞として使われるとしている。また、「面会する」のようなト格名詞をとるもの、「就任する」のようなニ格名詞を取るものは意味から見ると、その前に来る名詞に対する働きかけが弱いので自動詞に近いと述べている。

⒀シャープは買収を通じて主要部品を内製化し、液晶パネルの生産能力を増強する。（張2014：24）　（読売新聞2000年２月16日）

⒁その後、省エネや代替エネルギーの開発が進み、産油国の影響力は低下したものの、最近もパレスチナ情勢の緊迫で原油が高騰し、景気回復への悪影響が懸念されている。（張2014：24）
（読売新聞2000年10月16日）

以上をまとめて、日本語の動詞を「ヲ格の有無」と「ヲ格の意味」の２つの観点から自他動詞の定義に対する先行研究の記述を述べる。

「ヲ格の有無」について、松下（1923）、影山（1996）、張（2014）はいずれも「ヲ格」があるというだけでは他動詞であると判断できず、そのヲ格の意味を見なければならないと主張しているが、この主張はヲ格がない場合は自動詞になるという前提に立っている。

原則一　ヲ格の有無

動詞の自他を判定するには、ヲ格を取るか否かは一番重要な手がかりである。そのため、本稿ではヲ格を取らない場合は自動詞とする。

原則二　ヲ格の意味

ヲ格を取る動詞は目的語を表すヲ格名詞を取る動詞と目的語を表すヲ格名詞を取らない動詞に分けることができる。本稿では先行研究の指摘に従い、前者を他動詞、後者を自動詞とする。

５．漢語の品詞性

水野（1987：63）は漢語の品詞性を以下の５種類に分類している。

⒰体言類：格助詞「ガ」を伴って文の要素となる。（ex.近代・科学）
⒱相言類：「な」を伴って連体修飾成分となる。あるいは体言類・用言類・副言類に属さず「の」を伴って連体修飾成分となる。（ex.優秀・最後）
⒲用言類：「する」を伴ってサ変動詞となる。（ex.計画・注意）
⒳副言類：そのままで連用修飾成分となる。（ex.全然・絶対）
⒴結合類：上に挙げた四つの類のどれにもあてはまらず、必ず接辞等と結合して用いられる。（ex.積極・合理）

水野（1987：63）

本稿は水野（1987）の分類を参考にし、漢語の品詞性を判断する。例えば、「地盤」、「生徒」などは「する」を付けることができないものを名詞的要素とする。また、漢語は複数の品詞性を持つがの一般的なので、複数の品詞性を持つ場合は文中で（複合語の中で）どのように使われるかによってその品詞性を判断する。例えば、「自宅」、「事前」などは「自宅で」、「事前に」に言い換えられ、文中で省略すると文の意味が変わらないので、名詞的要素ではなく付加詞的要素とする。また、「爆発」、「複製」などは「する」

を付けて言い換えられるので動詞的要素とする。次に、VN-VNタイプの四字漢語動詞の分類を述べる。

6．VN-VNタイプの四字漢語動詞の分類

影山（2013：6f.）は、V1とV2との間にどのような意味的な関係を持つのかという側面から、V-Vタイプの和語複合動詞を以下の6種類に分類している。

(コ)手段：V1することによって、V2
例：突き落とす、切り倒す、踏みつぶす、押し開ける、…
(サ)様態：V1しながらV2
例：流れ着く、転げ落ちる、忍び寄る、舞い降りる、語り明かす、…
(シ)原因：V1の結果、V2
例：歩き疲れる、抜け落ちる、焼け死ぬ、…
(ス)並列：V1かつV2
例：忌み嫌う、恋い慕う、慣れ親しむ、…
(セ)補文関係：V1という行為/出来事を（が）V2
例：見逃す、編み上がる、死に急ぐ、聞き漏らす、…
(ソ)副詞的関係：V2が副詞的にV1の意味を補強
例：晴れ渡る（＝すっかり晴れる）、使い果たす（＝全部使う）、…

本稿では上記の分類を参考にし、VN-VNタイプの四字漢語動詞における前項要素と後項要素の関係を考察する。

7．考察

VN-VNタイプの四字漢語動詞とは、「通勤通学する」、「分析調査する」などのような動詞的要素1（以下、前項要素）と動詞的要素2（以下、後項要素）で構成されるものである。3章で述べたように、VN-VNタイプの四字漢語動詞には前項要素と後項要素が並立関係にあるタイプ、前項要素と後項要素が項関係にあるタイプ、前項要素が後項要素の様態・手段を表すタイプ、前項要素が後項要素の先行動作を表すタイプ、前項要素が後項要素の目的を表すタイプがある。以下、それぞれのタイプを考察する。

7.1. 前項要素と後項要素が並立関係にあるタイプ

本節では、「通勤通学する」、「指導監督する」などのような前項要素と後項要素が並列関係にある四字漢語動詞を考察する。本稿では、並列関係とは、小林（2004：256）の定義に従い、前項要素と後項要素が類義的な意味を持つということを指す。次の例を見る。

⒂
a. 自治体では<u>市町村道</u>を<u>維持管理する</u>ため、道路パトロール業務、除雪業務などが行われています。これらの業務では日々の作業日報の作成を手書きで行っている部分が多く、業務効率化が求められております。
（http://www.hitachi.co.jp/Div/jkk/research/civil/index.html）
b. 府内の<u>児童相談所</u>を<u>指導監督する</u>大阪府家庭支援課も、センターの対応に不備がなかったかどうか調査することを決めた。虐待について、迅速な対応や早期発見が可能となるような対策作りも急ぐ方針。
（毎日新聞データファイル2004年1月26日）

⒃
a. 通知によれば、公的テストは「学校が<u>連携協力して</u>問題を作成や採点に携わるなど、それぞれの学校が教育活動として行う性質のもの」に限って認められる。（小林2004：256）
（朝日新聞1993年5月22日）
b. こうしたロケーションの悪さを解消するとともに、埼玉県に在住し東京都内に<u>通勤通学する</u>「埼玉都民」の便を図ろうと、東京駅前でのキャンパス設置を決めた。［＝例⑹］

本稿の自他の判定基準に従うと、例⒂aと例⒂bは他動詞、例⒃aと例⒃bは自動詞である。内部構造から見れば、例⒂aの「維持管理する」と例⒂bの「指導監督する」は「維持」と「管理」、「指導」と「監督」、例⒃aの「連携協力

する」と例⒃ｂの「通勤通学する」は「連携」と「協力」、「通勤」と「通学」の組み合わせで複合した四字漢語動詞であり、前項要素と後項要素が類義的な関係を持つ。前項要素が「～して」に言い換えることができるため、このタイプの四字漢語動詞は「右側主要部の規則」により、その自他は後項要素の自他で決めるということになる。例えば、後項要素（管理する、監督する）が他動詞であるため、例⒂ａの「維持管理する」と例⒂ｂの「指導監督する」は他動詞になる。それに対し、後項要素（協力する、通学する）が自動詞であるため、例⒃ａの「連携協力する」と例⒃ｂの「通勤通学する」は自動詞になる。次に、前項要素と後項要素が項関係にあるタイプを述べる。

7.2. 前項要素と後項要素が項関係にあるタイプ

本節では、「辞任表明する」、「放送開始する」などのような前項要素と後項要素が項関係にある四字漢語動詞を見る。本稿では、項関係とは、小林（2004：253）の定義に従い、前項要素は後項要素の目的語であるということを指す。次の例を見る。

⒄

ａ．イスラム原理主義組織「ハマス」のガザ地区新指導者ランティシ氏は２８日、「ブッシュ（米大統領）は神の敵だ」「神は米国とイスラエルに宣戦布告した」などと発言、イスラエルに加え米国も強い調子で非難した。対米テロの開始を視野に入れた発言とも受け止められ、米国を刺激する可能性がある。

（毎日新聞データファイル2004年３月29日）

ｂ．約５０万人（主催者発表）が参加した先月１日のデモに端を発し、香港政府に対する市民の不満が高まるなか、当時の梁錦松・財政長官と葉劉淑儀・保安局長が同１６日に辞任表明した。

（毎日新聞データファイル2003年８月５日）

本稿の自他の判定基準に従うと、例⒄ａと⒄ｂは自動詞である。内部構造から見れば、例⒄ａの「宣戦布告する」と⒄ｂの「辞任表明する」はそれぞれ「宣戦を布告する」、「辞任を表明する」に言い換えることができるため、前項要素が後項要素の目的語を表すものである。

前項要素が後項要素の目的語として編入される場合、四字漢語動詞はもう一つの目的語を表すヲ格名詞を取ることができないため、自動詞になる。一方、次のような例も見られる。

⒅

ａ．住むための土地しか持たない人に過重な負担にならないよう、固定資産税をどのような形で課税強化すればよいのか、住民税減税と組み合わせられないか、など具体的な論議を始める時期にきている。（小林2004：259）

（朝日新聞1989年11月22日）

ｂ．小野伸二選手（浦和レッズ）のドルトムント移籍話や、９月からWOWOWがブンデスリーガの試合を放送開始するなど、ドイツサッカーへの注目が再び高まりそうだが、その厳しい目で見ると、2002年大会、日本はどこまで行けるか。（小林2004：259）

（毎日新聞2000年12月26日）

本稿の自他の判定基準に従うと、例⒅ａと例⒅ｂは他動詞である。内部構造から見れば、例⒅ａの「課税強化する」と例⒅ｂの「放送開始する」はそれぞれ「課税を強化する」、「放送を開始する」に言い換えることができるため、前項要素が後項要素の目的語を表すものである。

ヲ格名詞が前項要素に対してより詳細な情報を加え、「余剰性」に反していない場合、四字漢語動詞はもう一つの目的語を表すヲ格名詞を取ることが可能になるため、他動詞になる。例えば、例⒅ａの「固定資産税の課税を強化する」の場合は「固定資産税」が「課税」の一種、例⒅ｂの「試合の放送を開始する」の場合は「試合」が「放送」の具体的な内容を表す。つまり、「NのVN1をVN2する」の場合、NがVN1の性質を限定し、より詳細な情報を与える場合は「Nを［VN1＋VN2］する」が成立するため、四字漢語動詞は他動詞になる。

以上で述べたことをまとめると、前項要素が後項要素の目的語として編入される場合、四字漢語動詞はもう一つの目的語を表すヲ格名詞を取ることができないため、自動詞になる。ただし、ヲ格名詞が前項要素に対してより詳細な情報を加え、

「余剰性」に反していない場合、四字漢語動詞はもう一つの目的語を表すヲ格名詞を取ることが可能になるため、他動詞になる。次に、前項要素が後項要素の様態・手段を表すタイプを述べる。

7.3. 前項要素が後項要素の様態・手段を表すタイプ

本節では、「冷蔵保存する」、「焼身自殺する」などのような前項要素が後項要素の様態・手段を表す四字漢語動詞を見る。本稿では、様態・手段とは、小林（2004：264）の定義に従い、後項要素がどのような様子で行われるか、どのような手段を使って行われるかを前項要素でより詳しく述べるということを指す。次の例を見る。

⒆

a. にもかかわらず、京都の養鶏組合が半年も前に採れた卵を冷蔵保存し、虚偽の採卵日を表示して出荷していた。消費者に対する著しい背信行為である。

（毎日新聞データファイル2004年１月29日）

b. 腸管出血性大腸菌O157は非常に熱に弱く、75度で１分以上加熱すれば安全です。肉を加熱調理する方法には、「焼く」「ゆでる」「煮込む」「揚げる」「蒸す」の方法があります。

（http://kumamoto.lin.gr.jp/shokuniku/kisochisiki/qa/index.html）

⒇

a. 地上げブームは、官と商に成り金を生む一方で、十分な補償金もなく住まいを奪われた都市住民や農地を失った農民を生み出した。各地で抗議行動が起き、北京の天安門広場で焼身自殺するという事件まで起きた。地上げや強制立ち退きは社会問題になった。

（毎日新聞データファイル2004年３月７日）

b. 病院のある島から逃走して捕まった仲間は、セメントの床で布団もない監禁室に入れられ、四つんばいにさせられ棒で打たれたり、断種を強いられた。監禁室で死んだり、絶望して海岸で入水自殺した仲間を目の当たりにしてきたという。

（毎日新聞データファイル2004年２月25日）

本稿の自他の判定基準に従うと、例⒆ａと例⒆ｂは他動詞、例⒇ａと例⒇ｂは自動詞である。内部構造から見れば、例⒆ａと例⒆ｂはそれぞれ「卵を冷蔵することによって保存する」と「肉を加熱することによって調理する」、例⒇ａの「焼身自殺する」と例⒇ｂの「入水自殺する」はそれぞれ「焼身することによって自殺する」と「入水することによって自殺する」に言い換えることができる。つまり、前項要素は後項要素がどの様子で行われるか、どの手段を使うかを表し、その様子・手段を説明する。例えば、例⒆ａと例⒆ｂの場合、四字漢語動詞が取るヲ格名詞（卵、肉）は後項要素（保存する、調理する）が付与したため、他動詞として使われる。それに対し、例⒇ａと例⒇ｂの場合、四字漢語動詞がヲ格名詞を取ることができないのは後項要素（自殺する、自殺する）が自動詞であるため、ヲ格名詞を付与することができないからである。つまり、このタイプの四字漢語動詞の自他は後項要素の自他で決めるということになる。次に、前項要素が後項要素の先行動作を表すタイプを述べる。

7.4. 前項要素が後項要素の先行動作を表すタイプ

本節では、「輸入販売する」、「選定購入する」などのような前項要素が後項要素の先行動作を表す四字漢語動詞を見る。本稿では、先行動作とは、小林（2004：254-255）の定義に従い、前項要素が「～して」に言い換えられ、前項要素は後項要素の先行動作を表すということを指す。次の例を見る。

(21)

a. 嫡出子と非嫡出子を戸籍の続柄欄で区別記載する合理的な理由は見当たらない。続柄欄がなくても、戸籍の身分事項欄を読めば嫡出、非嫡出の区別は分かるからだ。

（毎日新聞データファイル2004年３月４日）

b. 田中容疑者は０２年９月上旬、東広島市内在住の会社役員に対し、広島市が計画中のクリーンエネルギーを研究開発する機関の設置が決まったかのように話し、「開発た技術を特許化したら利益が出る。

（毎日新聞データファイル2004年１月１日）

(22)

a．噴火災害による全島避難から４年目を迎えた東京都三宅村（三宅島）で来月１５日、避難後初の村長選と村議選が行われる。しかし、有権者２８０９人（昨年１２月２日現在）は全国１６都県に分散避難しており、出馬予定者もどうやって選挙運動をすればいいのか困惑している。

（毎日新聞データファイル2004年１月30日）

b．俳優の松平健さん（５０）＝写真＜右＞＝と大地真央さん（４７）＝同＜左＞＝夫妻が昨年１２月に協議離婚していたことが２２日、分かった。（毎日新聞データファイル2004年１月22日）

本稿の自他の判定基準に従うと、例(21) a と例(21) b は他動詞、例(22) a と例(22) b は自動詞である。内部構造から見れば、例(21) a と例(21) b はそれぞれ「嫡出子と非嫡出子を区別して記載する」と「クリーンエネルギーを研究して開発する」、例（22a）と例(22) b はそれぞれ「分散して避難する」と「協議して離婚する」に言い換えることができる。つまり、前項要素は後項要素がどのような状況で行われるかを表し、その付帯状況を説明する。例えば、例(21) a と例(21) b の場合、四字漢語動詞が取るヲ格名詞（嫡出子と非嫡出子、クリーンエネルギー）は後項要素（記載する、開発する）が付与したため、他動詞として使われる。それに対し、例(22) a と例(22) b の場合、四字漢語動詞がヲ格名詞を取ることができないのは後項要素（避難する、離婚する）が自動詞であるため、ヲ格名詞を付与することができないからである。つまり、このタイプの四字漢語動詞の自他は後項要素の自他で決めるということになる。次に、前項要素が後項要素の目的を表すタイプを述べる。

7.5. 前項要素が後項要素の目的を表すタイプ

本節では、「実証分析する」、「体験入部する」などのような前項要素が後項要素の目的を表す四字漢語動詞を見る。本稿では、目的とは、小林（2004：267）の定義に従い、前項要素が「～するために」に言い換えられ、前項要素は後項要素の目的を表すということを指す。次の例を見る。

(23)

a．都教委はこれまでに、都立校の創立記念式典（周年行事）で、君が代斉唱時に起立しないなどの理由で教職員１０人、３月の卒業式で１７１人を戒告処分した。定年退職後に嘱託教員への任用が決まっていた３人は処分と同時に再雇用選考の合格を取り消され、嘱託教員５人は再雇用の更新を拒否された。

（毎日新聞データファイル2004年４月６日）

b．深刻化する若年雇用、高齢化社会、リストラなど、さまざまな就業問題を実証分析し、新しい仕事の創出を提言。

（毎日新聞データファイル2004年４月19日）

(24)

a．ところが、日本に永住帰国した孤児はまだ93人しかいない。［＝例(7)］

b．今回の知事選は、長女の政治資金規正法違反事件で土屋前知事が引責辞職したことに伴うもの。このため県政改革や「政治とカネ」の問題が最大の争点となった。

（毎日新聞データファイル2003年９月１日）

本稿の自他の判定基準に従うと、例(23) a と例(23) b は他動詞、例(24) a と例(24) b は自動詞である。内部構造から見れば、例(23) a と例(23) b はそれぞれ「１７１人を戒告するために処分する」、「就業問題を実証するために分析する」、例(24) a の「永住帰国する」と例(24) b の「引責辞職する」はそれぞれ「日本に永住するために帰国する」、「引責するために辞職する」に言い換えることができる。つまり、前項要素は後項要素の目的を説明する。例えば、例(23) a と例(23) b の場合、四字漢語動詞が取るヲ格名詞（１７１人、就業問題）は後項要素（処分する、分析する）が付与したため、他動詞として使われる。それに対し、例(24) a と例(24) b の場合、四字漢語動詞がヲ格名詞を取らないのは後項要素（帰国する、辞職する）が自動詞であるため、ヲ格名詞を付与することができないからである。つまり、このタイプの四字漢語動詞の自他は後項要素の自他で決めるということになる。

８．まとめと今後の課題

本稿では、VN-VNタイプの四字漢語動詞の自他とその内部構造の自他との関係を考察した。考察結果をまとめると、以下の通りである。

日本語は「右側主要部の規則」であるため、前項要素と後項要素が並立関係にあるタイプ、前項要素が後項要素の様態・手段を表すタイプ、前項要素が後項要素の先行動作を表すタイプはこの規則により、四字漢語動詞の自他は後項要素の自他で決めると考えられる。しかし、前項要素と後項要素が項関係にあるタイプから見たように、前項要素が後項要素の目的語として編入される場合、四字漢語動詞はもう一つの目的語を表すヲ格名詞を取ることができないため、自動詞になる。ただし、ヲ格名詞が前項要素に対してより詳細な情報を加え、「余剰性」に反していない場合、四字漢語動詞はもう一つの目的語を表すヲ格を取ることが可能になるため、他動詞になる。

本稿では、新聞に現れた四字漢語動詞のみを対象にしたが、新聞に特有の表現もあると思われるため、これからも小説や雑誌から用例を収集し分析する必要がある。また、例(25)のようなADJ-VNタイプの四字漢語動詞の自他とその内部構造の自他との関係についての考察は今後の課題としたい。

(25)利権政治家と背徳的官僚は、不正に利得を得ようとしている不公正な業者と結託しています。こうした関係を明らかにし、政治家の不正を根絶するために、企業・団体献金を全面公開します。

（毎日新聞データファイル2003年10月6日）

注

1）本稿では、「ADJ」は「付加詞的要素」(adjunct) の略である。（以下同様）

2）本稿でいう自他両用動詞とは「車のエンジンが停止した」、「私は車のエンジンを停止した」が示すように、自動詞としても他動詞としても使われる動詞を指している。

3）竝木 (1985)、影山 (1993)、小林 (2004)などによると「右側主要部の規則」(Righthand Head Rule) とは、合成語では主要部が右側に位置するということを指す。

参考文献

奥津敬一郎（1967）「自動化・他動化および両極化転形：自・他動詞の対応」,『国語学』70, pp.46-66.

影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房.

———（1996）『動詞意味論：言語と認知の接点』くろしお出版.

———（2013）「語彙的複合動詞の新体系：その理論的・応用的意味合い」, 影山太郎編『複合動詞研究の最先端：謎の解明に向けて』, pp.3-46, ひつじ書房.

小林英樹（2004）『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房.

張志剛（2014）『現代日本語の二字漢語動詞の自他』くろしお出版.

竝木崇康（1985）『語形成』大修館書店.

野島啓一（2006）「四字動詞の研究」,『北九州市立大学文学部紀要』72, pp.33-42.

松下大三郎（1923）「動詞の自他被使動の研究」, 須賀一好・早津恵美子編『動詞の自他』, pp.13-40, ひつじ書房.

水野義道（1987）「漢語系接辞の機能」,『日本語学』6(2), pp.60-69.

森田良行（1987）「自動詞と他動詞」, 山口明穂編『国文法講座　第６巻（時代と文法：現代語）』, pp.155-180, 明治書院.

（2022年３月28日受付）